奈良県民俗資料収集・保存方針等検討委が初会合　保存方針など議論へ、来年度中の策定目指す

2024/11/19 奈良新聞　643文字

施設の老朽化やスペース不足により民俗資料の収集・保存が課題となっている奈良県立民俗博物館(大和郡山市)について、県は18日、有識者でつくる「民俗資料収集・保存方針等検討委員会」(委員5人)の初会合を県庁で開いた。検討委は民俗資料の収集と整理について議論し、県は2025年度中の収集・保存方針策定を目指している。

会合は冒頭を除き非公開で行われた。委員長に選出された日高真吾・国立民族学博物館教授(保存科学)は会合後、「同館の民俗資料の収集量は県立博物館としては全国最大規模だが、これまでは収集を中心に活動されて、その後の整理が足りていなかったことが確認できた」と語った。

今後の議論に向けては「どのようにコレクション化を図り、どういう形で県民の皆さんに発信していくかを考えていきたい」とした。博物館の民俗資料の収集・保存は全国的な課題で、「解決プロセスを丁寧に発信したい」とも述べた。

県立民俗博物館は1974(昭和49)年に設置。収集した約4万5千点の民俗資料が収蔵庫に収まりきらず、敷地内のプレハブ倉庫や館外の旧県立高田東高校、旧郡山土木事務所で収容。ただ施設の老朽化で保存環境に適していないため、県は今年7月に本館展示室を一時休止し、同館に資料を集めて整理を進める計画を立てている。

並行して同検討委では、収集・保存方針やデジタルを活用した保存基準、除籍の手順規定について議論し、県は2025年度中の方針・基準等の策定を目指している。検討委の次回会合は25年1月ごろを予定する。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.